

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4697300046
法人名	株式会社 スマイルサポート
事業所名	グループホーム 優芽
所在地	〒893-1203 鹿児島県肝属郡肝付町後田5567番地1 (電話) 0994-36-5833
自己評価作成日	令和2年3月3日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・国見山が一望できる自然豊かで鳥のさえずりや四季折々の花々、空気が新鮮で落ち着いた環境の中、家庭的な雰囲気です。人と人とのふれあいや繋がりを大切にしています。お互いが人の暖かさを感じあえる関係作り、自己決定を尊重し快適な生活空間の提供、できないところはさりげなく支援し、穏やかで安心安全で楽しく笑顔で過ごすことができるよう日々お手伝いをさせて頂いております。田舎ではあるもののその特性を活かし、自作の米、野菜、味噌など食の安全・美味しさにこだわり、認知症になっても安心して生活できる環境づくり、また理念である「ひとりひとりの心に幸せが芽吹き、笑顔あふれる場所づくりを目指します」をもっとうに経験のあるスタッフが個々の状態に応じた適切なサービスを提供できるよう取り組んでいます。利用者様には入居後も生きがいを持って慣れ親しんだ地域の中で継続した生活が送れるように、買い物の支援、四季折々の花見、外出の機会、社会参加活動を行い、保育園の園児や、地域ボランティアの方々と交流を行っています。また、災害時の福祉避難所として指定を受けており、災害時にも安心して快適に過ごして頂けるよう努めています。これからも「利用者様の笑顔を大切に」「利用者様の声に耳を傾ける」「利用者様目線で物事を考える」グループホーム作りを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、鹿屋市街地から車でアクセスも良く自然豊かな位置にあり、同敷地に居宅介護支援事業所、住宅型有料老人ホーム、通所介護事業所などが併設されており、日常的な連携や災害時の相互協力体制が整備されている。自治会に加入し、青壮年部に在籍して地域活動に協力しているが、地域は、少子高齢化の現実もあり、昔ながらの地域行事が少なくなっている。自治会長などと協力関係を築き運営推進会議時に相談し、災害時の避難場所としての受け入れや門松作り、餅つき大会、ボランティアの受け入れなどを柔軟におこない地域交流を推進している。また、「ダンボの会」と名付けられた傾聴ボランティアの受け入れや保育園児との交流活動や隣町との共同による、鬼火焚き、水神祭りを実施している。法人全体の行事開催時は、有線放送を通じて地域に知らせ地域住民の参加を呼び掛けている。

法人が協力医療機関と直接契約を交わし、24時間途切れない医療連携が図られ、看護職を配置し利用者の日々の健康管理、服薬管理、受診のサポートなどがあり、医療との連携が円滑にいくように支援している。また、事業所は、重度化や終末期ケアへの取り組みを柔軟におこなっており、緊急時の往診や重度化への対応、終末期への備えと状態の変化において主治医と密な連携が図れ24時間いつでも医療と繋がり、入退院時の医療機関との協働や適切な治療、看護・介護、ホームでの看取りができるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念に沿ったサービス提供が実施できるよう掲示板へ理念を掲示し、いつでも確認・共有できるようにして、ミーティングや職員会で話などを行い実践に繋がられるようにしている。	理念は、共有スペースに掲示されパンフレットや重要事項説明書などに記載されている。職員は理念を達成するための目標についても日々の実践で取り組み、人事考課システムがあり理念に沿ったケアができていますか自己評価を行い職員会議などで話し合い、振り返る機会を設け実践に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で開催する季節の行事等へ地域の方をお招きして交流を図っている。また振興会へも加入し、今はなくなった振興会行事を復活させ、地域活性を図れるよう、実現できるよう振興会と連携していく。	地域は、運営者の地元でもあり日常的に地域と繋がりを交流している。自治会にも加入しており、水神祭りや鬼火焚きなどは隣町と協同しておこなっている。また、法人行事の門松作りや餅つき大会、保育園児との交流、敬老会に招待したり、総会では認知症の啓発活動を実施、ホームの行事案内は周辺住民にも知らせている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	様々なボランティアの受け入れ時や、研修時、スタッフが地域の会があるときなど参加して認知症の理解や支援、見守り、声かけなどの方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、近隣住民、振興会長、民生委員、市議会議員、役場施設担当職員の参加を得て定期的に開催し、施設の現状報告・行事参加を行ない、助言等を頂いて施設の発展に繋がっている。	会議は、年2回は併設のデイサービスと合同で実施したり、消防訓練と同時開催し、避難訓練の様子を家族や地域の方々にも見ていただき協力が得られるよう声かけしている。家族は、2~3名の方を代表として参加を依頼し、家族会で報告して情報を共有し意見をいただくようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加、施設現状の報告相談、市町村の開催する研修会参加等を行うことで、市町村担当者との信頼関係を築き、お互いの協力関係作りに取り組んでいる。	町担当者や福祉事務所職員とは、電話や面談などで事業所の実情や取り組みを伝え、指導やアドバイスなどを行っている。運営者は、大隅介護連絡協議会の役員としての役職や認知症カフェの視察に参加して見分を深め実践に活かしたり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	第三者を含めた身体拘束委員会を設置している。自施設、外部で行う高齢者虐待の勉強会、研修会を通じ、身体拘束の弊害等の知識の向上を図り、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	身体的拘束等の適性化を図るため、指針を整備し会議は3ヶ月ごとに開催されその結果については、議事録を閲覧してもらったり、ミーティングなどで話し合わせ職員などに周知徹底されている。また、研修は毎月実施しスピーチロックなどを重視し知識や技術を習得するなど身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で行われる研修会に参加したり、職員会議等で虐待防止についての啓発等を行い実施している。また、防犯カメラを設置しており、それらを有効活用することで虐待防止に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部で行われる研修会に積極的に参加したり、職員会議、職種長会、ミーティング等で虐待防止共に権利擁護についての啓発等を行い実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間をとり、本人やご家族に理解して頂ける様質問や本人・ご家族の色々な思いも聴きながら、必要に応じて具体的な事例を用い、納得していただけるような説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に何かあった場合はすぐ家族へ連絡し、家族の意向等確認しながら対応している。面会時に入居者の状況を報告するように心がけている。運営推進会議でもご家族等の意見を聞き対応できる部分は実施している。	運営者や管理者は家族との信頼関係を築くことを重視しており、面談時は対話して事業所の取り組みや個別ケアについて説明し、理解を得、協力関係を築き家族会や運営推進会議を通じて、意見や要望などを職員会議などで話し合い、出された意見はサービスの見直しや業務改善をするなどして運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議やミーティング、日頃から責任者等へ話のできる環境を整えることで、職員からの要望、意見等を聴取しながら業務運営している、又勤務においては勤務希望に関しての配慮も実施している。	人事考課システムがあり、年3回自己評価を実施し、管理者は、随時面談をしている。職員の定着も良く、意見、提案なども積極的に出され、子育て世代も働きやすいよう配慮している。職員は、懇親会を開いたり、休憩時間にコミュニケーションを取るなどして関係構築に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「働きやすい環境の整備」をもっとうに、昇給や通勤費の支給、賞与等で労働条件の改善を図り、やりがいを持って就労できるように配慮している。また有休や希望休をとりやすくしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外様々な研修を受ける機会を設けている。研修会に参加できなかった者も職員会時の研修報告・研修報告書等で情報の共有を図っている。またスタッフの状況に応じた研修会の紹介等実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡協議会に加入し、研修会への参加や情報交換等実施している。また地域の管理者や同業施設との食事会・懇親会などを通じて情報交換等実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活状況を知る為に可能な限り情報収集を実施する。生活状態、心身の状態、本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。また、担当ケアマネがある場合や医療機関の相談員などからも情報を頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談があった時点でご家族の入居申し込みに至るまでの思いを傾聴し、家族の思いを理解する事で信頼関係が構築出来る様に努めている。また、担当ケアマネがある場合や医療機関の相談員などからも情報を頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった時点で、本人、家族の話を傾聴し、必要な処置を講じている。また満床の場合は、居宅介護支援事業所等と連絡を取り情報交換を実施し他のサービス利用等も含めて話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護者であると共に、生活のパートナーとしての役割を持ち、相手の立場に立って共に悩み考えることを念頭に置きながら、個々にあったアプローチを考えサービス提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居により家族との切り離しや預けっ放しにならないよう、家族としての役割も含めて、これまでと変わらない生活感、家族関係が継続できる様にしている。状況によって電話や面会等依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂きながら情報交換を行い、近隣の知人や親戚関係などが訪問できるよう支援している。訪問時には笑顔で対応し、また来て頂けるような声かけや雰囲気作りに努めている。	年2回程度、近隣の方が面会に来られたり、ダンボの会（傾聴ボランティア）の方の訪問が楽しみになっている。歩行が難しくなり、外出が減ってきて来訪される方との馴染みの関係が深まっているが、訪問美容の方や入居家族との関係性ができてきて本人を支えていく関係性や馴染みの関係に一役を担っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ利用者同士の関係性や状態等を考慮して席を決めている。また、トラブル等が起きないよう・話の繋ぎやきっかけ作りなどとして職員が相中に入り調和を保ち、利用者同士の関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が面会に伺ったり、住宅復帰となった場合は、電話による声かけ支援などを実施し、いつでも相談できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを伺ったり、日々の関わりの中で言葉や表情などから、個々の思いや暮らし方の意向をできるだけ把握出来る様カンファレンス等で検討している。	意思疎通が困難な方、発語がなく思いを推し量ることも難しい方もおられるが、職員情報を駆使し共有を図り、連絡ノートなどを活用したり、カンファレンスなどで話し合うなどして、本人の思いや意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族からこれまでの生活習慣や趣味、楽しみ等の情報を得ている。また新しい情報は共有出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握・違いを理解し、就寝や食事の時間などを限定することが無いように情報の共有を図り、その人らしい生活が出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族などの面会時に話しをしたり、日々の記録や職員同士の情報交換、カンファレンスなどを参考にプラン作成を行い、みんなですべてを共有することでチームケアへと繋げている。	担当者会議は、家族の都合に合わせて開催しているが、電話や面談時に介護計画書の説明をおこなうこともある。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、6ヶ月ごとに見直しを含めモニタリングを実施している。個別記録は、職員全員が情報を共有できるように取り組んでおり、介護計画書に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態や介護の記録など個別に記録へ残し、職員全員の情報が共有できるようにしていることで介護計画に反映でき、必要に応じて介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の介助（家族と一緒に受診の立会いし情報の提供）家族が遠方の方は代理の事務手続き等も支援している。また地域の老人会やボランティアの方々等との外部との交流を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々等の協力及び交流の機会や近隣のお店へ出かける等している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則的にかかりつけ医は入居によって変更はしないが、本人、家族の依頼、また、協力医療機関との関係性を情報提供する事で、協力医療機関へ変更し定期的往診を受けている。他病院受診必要時は一緒に受診し情報提供等実施している。	管理者は、入居時契約書・重要事項説明書にて緊急時などの対応や事業所の医療に関する事業所の方針について説明や同意をいただいている。協力医療機関と法人が契約を交わし、緊急時や必要時の往診や訪問診療など24時間医療が受けられるオンコール体制が構築されている。看護職が在籍しており利用者の健康管理を行い、他科受診に同行するなど医療連携が図れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り、ミーティング、連絡帳で情報の共有を図り、必要な処置を講ずることができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急に入院となった場合は、職員が付き添い、入院に至るまでの経過と日常生活状態等の情報提供を行っている。また長い入院時は職員が面会に伺い、病院職員との情報交換等を行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のケアに関しては「看取りケア指針」で利用者と家族へ説明し家族の意向等も確認し同意書も作成している。また、協力医療機関との医師、看護師と密に連携をとっており、様々な状況に対応して頂けるようにしている。	重度化や終末期に関する指針があり、看取りの経験もある。契約時に「意志確認書」にて、利用者、家族に同意を取るよう取り組んでいるが、早い段階から話し合い、その都度意思を確認しながら、納得のいく最期を迎えられるようチームケアにて支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故等の発生時のマニュアル等作成し、備えている。また外部研修で看護師や医師などの専門家などの研修を受けて緊急時等に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練、消火訓練は年2回（消防署立ち合い、自主訓練）実施するように計画し行っている。夜間を想定した避難訓練、消火器の使い方、消火の仕方等を実施し、消化器やスプリンクラー等の定期点検も実施している。また、地震や水害についてもマニュアルを作成している。福祉避難所としての指定も受けており、日頃からの食料・水などの備蓄もしてあり、災害時にしっかりフォローできる体制を整えている。</p>	<p>避難訓練は、法人施設と合同で行い、消防署立ち合いのもと夜間想定で実施、自主訓練を年1回実施している。法人職員や地域の消防分団員の協力体制がある。自動通報装置があり、自家発電機、米は粳で保存、味噌は自家製で大豆から栽培し常備している。半年ごとに専門の業者に依頼し消防機器の点検を実施、消防署も抜き打ちの点検を行う。台風接近時は、前日から職員が泊まり込むなど有事の対応ができています。また、災害時は、地域住民の避難場所に指定されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者との馴染み・信頼関係を築くことから始めて、関係が築けたからといってなあなあにならず、人生の先輩であり尊敬の念を念頭に置き、名前の呼び方や介護に気を付けている。	地元鹿屋市の方言が通じやすく日常的に使用しているが、丁寧語を意識し失礼にならないよう注意を払い不適切な言葉やプライバシーを損ねない言葉使いやケアに努めている。接遇マナーについては、研修会に参加し自己研鑽している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりコミュニケーションを大事にし、利用者の思いや希望を聞いたり、自己決定ができるような声掛けや雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にし、ゆっくりとした時間の流れの中で、喜怒哀楽もありつつ張りのある生活ができるように、利用者の希望を傾聴しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人と一緒に衣服を選択し、時にはお化粧品したりなどおしゃれを楽しめるように工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な料理を基本に、昔の料理から若い年代の料理まで工夫して提供し、個々に合わせた食事形態や食器等の工夫もしている。また、できるだけ利用者の要望を聞きながら献立を作っている。	日勤の職員がその日の食材で調理している。買い物は地元スーパーで行い、保存食や法人全体でのそば打ち、行事食や誕生日ケーキや手作りのおやつ作りを楽しんでいる。下ごしらえなど能力に応じた手伝いがあり、家族からの差し入れも多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の一日の水分摂取量や食事摂取量を記録し、管理が出来る様になっている。また定期的な体重測定等によって健康管理を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持が出来る様支援している。また、歯科医師が定期的にチェックし、必要な処置を行ったり、口腔ケア指導のアドバイスを受けたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を個別に作成・記録し、排泄状況やパターンを把握・確認できるようにしている。それにより、個々に応じた誘導、声かけを行い、できる限りトイレでの排泄を実施し、状況に応じて紙パンツ、オムツの使用をしている。	排泄チェック表で排泄のリズムを把握し、声かけやタイミングをみてトイレ誘導し、トイレで排泄ができるよう排泄介助している。便秘傾向の方には、食事や水分補給、運動の習慣を心がけるなどして排便コントロールをしている。浴室隣には、廊下、脱衣場双方から入れるトイレが設置され排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・排泄チェック表を個別に作成・記録し、摂取状況や排泄状況を把握・確認できるようにしている。水分補給の促しや食事の工夫、適度な運動など実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本は1日おきの入浴だが、必要時、希望時にはその都度実施している。また、特殊浴槽も設置しており、安心安全に入浴できるようにしている。入浴時はゆっくりと楽しく入浴できるよう配慮を行っている。	リフトが設置してある余裕のある浴室である。基本的には、週3回、午後からの入浴支援であるが、利用者の希望や体調を見ながら必要に応じて入浴が楽しめるよう柔軟に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに応じて、いつでも休息や寝る事が出来き、夜間も気持ちよく眠ることができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員を中心に職員一人一人がしっかりと把握し、変化が見られたり、薬の変更等があった場合申し送りや連絡帳で常に情報を共有し適切な服薬管理・支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状況に応じて、調理、食器の片付け、洗濯物たたみ、シーツ交換、掃除等一緒にできる方には声かけ等しながら実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩やドライブ、買い物等に出かけている。また、希望時は自宅訪問、墓参り等家族の協力を得ながら実施している。	日常は、広い敷地内を散歩したり、桜やコスモス見物をしたり、近隣の公園や法人施設に出かけている。行事計画を作成し、四季折々の景色や季節が感じられるよう計画的に外出を支援しているが重度化もあり個別に外出支援をしている。また、家族に外出の協力を依頼し出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として現金の管理は行っていないが、必要に応じて立て替えを施設で行い、例えば買い物時など本人に渡し使用して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はいつでも受け付け、また希望があった場合特別に事情が無い限りはいつでもかけることができる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはみんなで作成などした季節の作品などを掲示し、ホールや個室などに季節の花を飾ったり、天窗から自然の光を取り入れ、換気や室温、湿度調整等行うなど意心地の良い空間づくりに努めている。	玄関は二重扉になっており、共有スペースは、畳スペースに大型テレビが設置してある。対面式キッチンで、天窗からは自然の明かりが入り解放感がある。廊下は広々としており、掃き出しサッシは非常口でもあるが開けると洗濯干し場として使用されており、地域の方が畑作業の手を止め利用者と会話するなど交流の場でもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには畳スペースがあり、仲の良い利用者や職員との交流を楽しむ事ができる。また、家族との面会時や読書などの時間を楽しく過ごすようにプライベートに過ごす事が出来る様に努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で今まで使用されていた馴染みの家具等を持ち込んでもらったり、位牌や生活に欠かせないものを持ち込んでもらい、限りなく今までの生活と変わらないものがある空間づくり、居心地の良い空間づくりに努めている。</p>	<p>壁にコルクボードが設置してあり、家族写真や利用者の作品などを思い思いに貼っている。吊り棚には夏物の寝具や衣類などが収納され物が落下してこないよう特殊な棚が設置してある。使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置やテーブルの高さ調整など利用者の状態に応じて移動しやすい、使い易い環境をつくり、居室やトイレ、お風呂などは分かりやすい表記にしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない